

2022年3月1日に公表した新経営体制に関する指名委員会のステートメント（和訳）

本日はご参加いただき、ありがとうございます。私は昨年半ばより指名委員会委員長を務めており、この間、我々は、何度も委員会を開き、東芝の経営陣のパフォーマンスをレビューしてきました。

既に公表した通り、指名委員会はこのレビューを支援するため、2社のエグゼクティブ・サーチ会社を起用しました。このうち1社は、社内候補者の資質・能力を検討するための独立したレビューを行い、CEO および COO のポジションを含む東芝の複数の役割について外部の候補者を相当数リストアップしました。

本レビューでは、経験、スキル、能力、誠実さに重点を置きました。本レビューは、2021年11月12日に公表した、東芝にキオクシアホールディングス株式会社（以下、キオクシア）および東芝テック株式会社（以下、テック）の株式を残し、デバイスCo.およびインフラサービスCo.のスピノフを含む一連の提案を行った戦略委員会の動きと連携してさらに進展しました。この間、指名委員会は、エグゼクティブ・サーチ会社と共に、スピノフ後の各社の事業分野に精通した経営者を含む外部候補者に対象範囲を拡大しました。ご承知のとおり、戦略的再編はその後2022年2月に修正され、エネルギー・インフラ事業を東芝内に残し、デバイスCo.を単一企業としてスピノフすることで、構造改革費用を削減し、株主への分配可能額を増やす一方、既に公表しているキオクシアと非注力の子会社に関する方針を変えないこととしました。

東芝の株主の中には、公表した計画に不満を表明している株主も複数おり、来たる臨時総会を前にして、不透明感が漂っています。株主の懸念は、スピノフ計画をタイムリーに実行する現経営陣の能力と意欲に対する懐疑的な見方、また、株主還元のスピードと規模を最大化することに集中しています。

その結果、指名委員会は、スピノフ計画に関する不確実性により、優秀な（外部）候補者の雇用に悪影響があることも認識し、一部の経営陣の交代を加速させる必要性を感じました。そこで、指名委員会は、暫定的な解決策として、公表した東芝の再編の開始・実行をリードできる候補者を特定しました。

指名委員会は、エグゼクティブ・サーチ会社からの助言および指名委員会内の審議に基づき、本日発表した人事については、社内候補者を優先することを取締役に提言しました。この人事を行うにあたり、指名委員会は、株主との信頼関係を再構築する必要性、タイムリーに改革を行う必要性、東芝のステークホルダーとの安定性を維持する必要性、また外部候補者を雇用しようとするにより短期的に生じる遅延リスクを考慮しました。

スピノフ計画に対する株主の支持を評価する上で極めて重要な臨時株主総会を間もなく迎えることを踏まえ、指名委員会は、計画を実行するリーダー案と両事業体の将来の経営について株主の皆様さらなる説明責任を果たすために、臨時総会に先立ち、今回の体制変更を発表し、実施することが重要であると考えました。

今回の経営陣の交代は、現在進行中の構造改革の一環であり、指名委員会は、東芝の取締役会および経営陣のパフォーマンスを引き続き評価する一方、外部の経営者が将来的に東芝にもたらす可能性のある潜在的利益を排除しません。

他の企業と同様に、経営陣のパフォーマンス評価は継続的なプロセスであり、もし変更があるのであれば、どのような変更をいつ行うべきかについては考慮すべき事項が多数あります。

本日選任された役員は、スピンオフ計画の実行を加速・支援し、公表した非中核事業の売却のプロセスの迅速化に貢献するものと考えています。

同時に、指名委員会と取締役会は、来る臨時総会における株主提案についても検討しました。この株主提案は、東芝に対し追加のプロセスの実行を要求しています。これは戦略委員会がじっくりと検討し、2021年11月12日に発表した広範なサマリー（戦略委員会レター）で詳述した内容ですが、指名委員会は、株主がこの株主提案に賛成票を投じるかもしれないことを認識しています。この点は、皆さんの前に座っている新たな3人の経営陣全員に明確に伝えられ、彼らは来たる臨時株主総会の意義を理解しています。

指名委員会は、新任の役員の新たな役割にお祝い申し上げます。また、指名委員会そして私は、綱川と畠澤に対し、長年にわたる多大なご尽力に対し感謝の意を表したいと思います。両氏は、引き続き取締役として、任期を終えるまでその役割を担っていきます。

以上